

令和 3 年 6 月 1 5 日

発生予察及び病虫害防除等担当課（係）長 様

新潟県病虫害防除所業務課長

令和 3 年度新潟県病虫害発生予察速報第 2 号の送付について
(斑点米カメムシ類の発生状況)

このことについて、別紙のとおり送付しますので、防除指導の参考にしてください。

(情報の問い合わせ先)

	T E L	F A X
新潟県病虫害防除所	0258(35)0867	0258(35)7445
〃 下越駐在所	0254(27)5518	同左
〃 佐渡駐在所	0259(63)3185	0259(63)4386

令和3年度
新潟県病虫害発生予察速報第2号
(斑点米カメムシ類の発生状況)

- 1 斑点米カメムシ類主要加害種の発生状況(6月上旬、水田畦畔すくい取り調査結果)
- (1) カメムシの種類別発生量(表1、2)
- ・アカスジカスミカメの確認地点率は**平年並**、すくい取り虫数は**平年比やや少ない**。
 - ・アカヒゲホソミドリカスミカメの確認地点率は**平年比低く**、すくい取り虫数は**平年比少ない**。
 - ・オオトゲシラホシカメムシの確認地点率は**平年並**、すくい取り虫数は**平年比やや少ない**。
- (2) 出穂・結実したナギナタガヤ、スズメノテッポウ等のイネ科雑草が多い畦畔でアカスジカスミカメが多く生息している事例が見られる。
- (3) 6月10日現在、北陸地方では向こう1か月間の気温は平年並か平年比高く推移すると見られる。

表1 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り確認地点率(単位: %)

種 類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカ スミカメ	本 年	35.7	23.1	21.4	15.4	66.7	44.4	33.3
	前年(令2)	35.7	23.1	28.6	61.5	50.0	33.3	38.7
	平 年	42.9	45.8	44.2	42.3	23.6	55.1	42.2
	平年比	並	やや低	低	低	高	並	並
アカヒゲホ ソミドリカ スミカメ	本 年	14.3	15.4	0.0	0.0	8.3	0.0	6.7
	前年(令2)	21.4	15.4	7.1	23.1	16.7	0.0	14.7
	平 年	29.5	20.7	33.1	36.4	14.9	7.9	24.7
	平年比	やや低	並	やや低	低	並	やや低	低
オオトゲシ ラホシカメ ムシ	本 年	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	8.0
	前年(令2)	0.0	7.7	21.4	0.0	16.7	0.0	8.0
	平 年	13.4	7.7	12.4	17.5	10.8	5.2	11.6
	平年比	やや低	やや低	やや低	やや低	高	やや低	並

表2 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り虫数(単位: 頭/地点、20回振り)

種 類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカ スミカメ	本 年	2.0	4.2	0.5	2.3	7.1	0.6	2.9
	前年(令2)	2.4	1.2	1.0	27.6	11.0	3.2	6.1
	平 年	5.7	4.2	6.2	13.3	3.3	8.6	6.2
	平年比	やや少	並	やや少	やや少	やや多	やや少	やや少
アカヒゲホ ソミドリカ スミカメ	本 年	0.3	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.2
	前年(令2)	0.5	0.2	1.0	1.2	0.3	0.0	0.4
	平 年	0.7	1.5	1.9	2.2	0.2	0.3	1.3
	平年比	やや少	やや少	やや少	やや少	やや多	やや少	少
オオトゲシ ラホシカメ ムシ	本 年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.1
	前年(令2)	0.0	0.1	0.3	0.0	0.2	0.0	0.1
	平 年	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2
	平年比	やや少	やや少	やや少	やや少	多	やや少	やや少

注1) 表1、2は畦畔すくい取り調査結果(病虫害防除所巡回調査、75地点、6月上旬)

注2) 表1、2の網掛けは、表1では確認地点率が平年比やや高～高、表2では確認虫数がやや多～多となったもの。

2 当面の対応と注意事項

斑点米カメムシ類主要加害種のうち、カスミカメムシ2種（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生量は斑点米の発生に大きく影響するため、以下の対策を徹底しこれらのカメムシの増殖を抑制する。

（1）水田周辺の雑草管理

ア カスミカメムシ類は、イネ科雑草の穂に集まり（図1）、イネ科種子があると長生きして卵を多く産む（図2）。このため、メヒシバ、ナギナタガヤ、エノコログサ、スズメノテッポウ等の出穂したイネ科植物に好んで寄生し、増殖する。イネ科雑草が出穂しない間隔で草刈りをくり返すことで、斑点米カメムシ類の増殖を抑え、水稻の出穂期以降の水田侵入量を減らすことができる。

イ イネ科雑草が繁茂している場合は、速やかに草刈りを実施する。また、防除実施前に雑草が繁茂するようなら再度草刈りを行い、除草を徹底する。

ウ 水稻の出穂期後もメヒシバ等のイネ科雑草が出穂・結実しないよう除草を継続する。

（2）水田内雑草の管理

水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を助長する。特に水稻の出穂期頃の水田内に開花したイヌホタルイが多いとアカスジカスミカメが侵入しやすく、被害が大きくなるため早めに除去する。

（3）注意事項

ア 水稻の出穂期予想の情報を留意し、品種ごとに適期に薬剤防除できるよう防除計画を立てる。

イ カメムシ類の発生動向については今後発表される最新の発生予察情報に留意する。

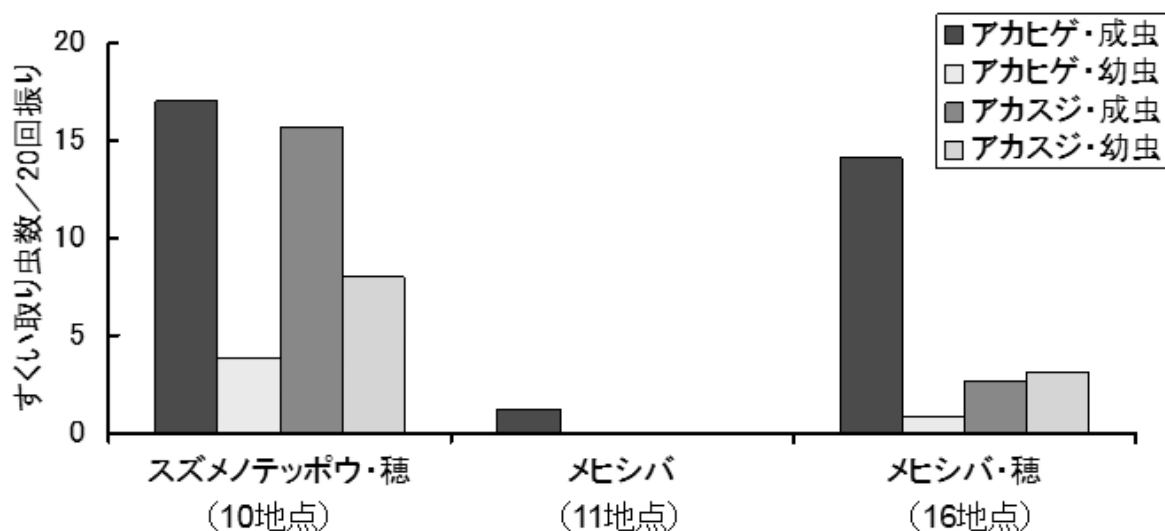


図1 水田畦畔における草種とカメムシすくい取り虫数の関係（長岡市、H21.6.25）

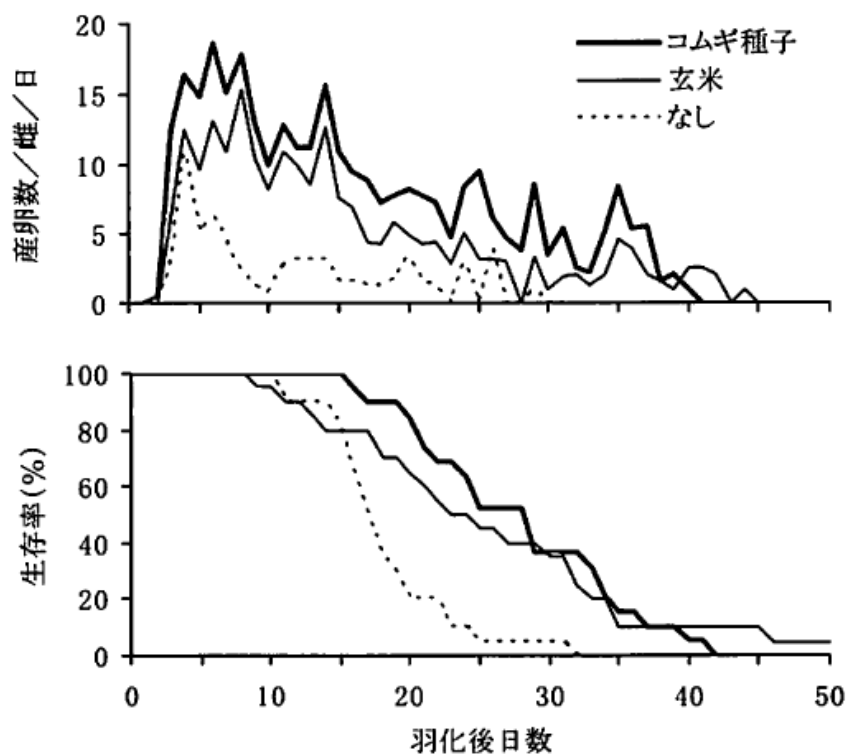


図2 コムギ幼苗に種子を加えて給餌したアカヒゲホソミドリカスミカメ雌の
 日月平均産卵数（上）と生存率（下）の推移（石本、2008）